

香川高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	語学特講Ⅰ（ドイツ語）	
科目基礎情報							
科目番号	0041			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械工学科（2018年度以前入学者）			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	『Mein Deutsch Mein Wunsch：ハンサムドイツ語』 高橋・城間 著 朝日出版社 ISBN:978-4-255-25357-2						
担当教員	田口 淳						
到達目標							
ドイツ語の基礎会話及び基礎文法を習得し、ドイツ語の簡単な文章を読み、書き、話すことができるレベル（独検4級合格程度）にまで到達することを目標とする。また、ドイツ語を通して、異文化への理解を深めながら、多角的な視野を養うことを目指す。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
ドイツ語の簡単な文章を読むこと		ドイツ語の簡単な文章を辞書なしで読むことができる		ドイツ語の簡単な文集を辞書を使って読むことができる		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使っても読むことができない	
ドイツ語の簡単な文章を書くこと		ドイツ語の簡単な文集を辞書を使わずに書くことができる		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使って書くことができる		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使っても書くことができない	
ドイツ語の簡単な文章を話すこと		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使わずに話すことができる		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使って話すことができる		ドイツ語の簡単な文章を辞書を使っても話すことができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	プリント教材や視聴覚教材を用いたり、グループ活動を通して、ドイツ語の基礎文法の習得と、簡単なドイツ語の文章を読み、書き、話すことができるようにする。						
授業の進め方・方法	1時間1項目を原則として授業を進めていく。その際、確認問題（配付プリント）やゲーム形式のグループ学習を通して、文法の定着を図っていく。						
注意点	担当教員への連絡先：教員室Tel 087-869-3842 E-mail：taguchi@t.kagawa-nct.ac.jp						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	発音、簡単な会話		ドイツ語特有のアルファベットや発音のポイントが理解でき、簡単な挨拶や会話、自己紹介がドイツ語でできる。		
		2週	動詞の現在人称変化語順		基本的な動詞の人称変化ができる。平叙文、疑問文、強調文の語順が理解できる。		
		3週	名詞の性定冠詞		名詞の性についての理解できる。定冠詞を用いた簡単な文章を読み、書くことができる。		
		4週	不定冠詞複数形		不定冠詞を用いた簡単な文章を読み、書くことができる。複数形の作り方を理解し、複数名詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		5週	定冠詞類		定冠詞類を用いた簡単な文章を読み、書くことができる。		
		6週	不定冠詞類		不定冠詞類を用いた簡単な文章を読み、書くことができる。		
		7週	指示代名詞、疑問代名詞		指示代名詞、疑問代名詞を用いた簡単な文章を読み、書くことができる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	試験返却、解説 不規則な現在人称変化をする動詞命令形		不規則な現在人称変化をする動詞の使い方を理解し、それを用いた文章を読み、書くことができる。命令形の作り方を理解し、簡単な命令形の文章を読み、書くことができる。		
		10週	人称代名詞		人称代名詞を用いた文章を読み、書くことができる。代名詞を用いた時の語順の違いを理解し、正しい語順で文章を書くことができる。		
		11週	前置詞		前置詞の格支配を理解し、前置詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		12週	形容詞の格変化①強変化、弱変化		形容詞の格変化（強変化、弱変化）を理解し、形容詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		13週	形容詞の格変化②混合変化、応用		形容詞の格変化（混合変化）を理解し、形容詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		14週	話法の助動詞		話法の助動詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		15週	未来の助動詞		未来の助動詞を用いた文章を読み、書くことができる。		
		16週	前期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。		3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。		3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。		3	

				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	80	10	0	0	0	10	100
基礎的能力	80	10	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0